

科目コード	25100		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育原理 [PP用]		担当者名	早田 剛			○		
			実務経験との関連	医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的・追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認 (約10分) 2. テーマに沿った解説と問いの提示① (約10分) 3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション (約30分) 4. テーマに沿った解説と問いの提示② (約10分) 5. グループ発表および聴講 (約30分) : 6. 課題レポート作成 (約10分) 次週課題の確認 (⇒自宅学習：約30~60分)

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

予習課題：10%、意見交換：20%、発表：30%、授業後レポート：20%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

<教科書>

B5判/218ページ (令和4年度発行版) ¥nhttps://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59現代高等保健体育 保体「701」 (ISBN:9784469663198) 大修館書店

友添秀則、岡出美則 編 (2016年) 教養としての体育原理大修館書店

<参考書>

高橋 徹 編 (2021年) はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する 2) 体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する。体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
3	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、(できる)とはどういうことかを検討する
4	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
5	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
6	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
7	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報(データ)に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
8	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
9	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ(遊び)について学び、自分の意見を検討する
10	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
11	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
12	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
13	スポーツと社会	スポーツ需要の質的変化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する
14	スポーツとコミュニティまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する 2) 体育原理を総括する

科目コード	40121		区 分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	佐藤 伸之			○		
			実務経験との関連	専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

<授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3) ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

<授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 ¥n2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通じたディスカッションを実施する。 ¥n3) タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

<教科書>

なし

公益財団法人日本ソフトボール協会中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き

<参考書>

NPO法人日本ティーボール協会編ティーボール入門

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法と工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②
13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成

科目コード	40101		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボール I (基礎)		担当者名	國友 亮佑、西垂水 美桜			○		
			実務経験との関連	事業団スポーツチームの選手・ストレンクス&コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効率的な授業運営に為に履修者の上限人数は40名前後とする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことが出来る。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験

科目コード	40120	区 分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	サッカー [PP・PS男子用]	担当者名	桂 秀樹		○				
		実務経験との関連	プロスポーツチーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ボールとゴールさえあれば誰でも楽しめるシンプルさが魅力である。しかし、足でボールを扱う競技特性から、経験者と未経験者のあいだで技術差が生じやすい。本授業では、ドリブルやパスなどの基礎的なボール扱いの技術を段階的に身につけ、誰もがゲームを楽しめるようになることを目指す。また、様々なゲームの手法を通して動き方や基本的な戦術を理解し、サッカーというスポーツへの理解を深めていく。¥n¥n

<授業の到達目標>

本授業では、サッカーの基礎的な技術を身につけるとともに、サッカーを通じて仲間と楽しく関わり合える指導ができる力を養う。小人数のゲームや基本的な戦術理解を通して、技術の巧拙にかかわらず誰もが楽しめる場づくりを学び、サッカーをコミュニケーションの手段として活用できる指導方法を身につけることを目標とする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。受講者の体調や怪我の有無に応じて無理のない範囲で活動を行う。また、熱中症予防として適宜給水休憩を設ける。怪我が発生した場合は応急処置を行い、必要に応じて連絡・報告をする。¥n履修上限60名

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・参加状況（50%）、指導計画書の作成（30%）、指導実践（20%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ、ドリブル
3	基礎技術のトレーニング(2)	各種キック、パス、トラップ
4	GKのトレーニング	ゴールキーパーについて学ぶ
5	応用技術のトレーニング	ターン、ボールキープ、フェイント
6	ボールポジション(1)	少人数でのボールポジション
7	ボールポジション(2)	多人数でのボールポジション
8	個人戦術とグループ戦術	1対1、2対1、2対2
9	グループ戦術	3対2、3対3、4対4
10	コーチング、指示	グループ戦術の中で味方を指示してコミュニケーション取りながら、様々な場面に対応してみる。
11	指導実践およびリーグ戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践①¥nリーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
12	指導実践およびリーグ戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践②¥nリーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
13	指導実践およびトーナメント戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践③¥nトーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。
14	指導実践およびトーナメント戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践④¥nトーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。

科目コード	40104	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ハンドボール I (基礎)	担当者名	仙波 慎平			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とし、超過した場合は抽選とする。)本授業は実技科目であるため、受講者の安全確保を最優先とし、以下の点に留意して実施する。1. 安全配慮に関する事項
 ・ 授業開始前にウォーミングアップおよびストレッチを十分に行い、傷害予防に努めること。
 ・ 教員の指示および施設利用上のルールを厳守すること。
 ・ 体調不良や既往歴(持病・怪我等)がある場合は、事前に申し出ること。
 ・ 適切な服装・用具を着用し、安全に配慮した行動をとること。
 ・ 危険が予測される行為(無理な動作、指示外のプレー等)は禁止する。
 ・ 授業中に体調不良や異変を感じた場合は、速やかに教員へ申し出ること。
 2. 事故発生時の対応
 ・ 授業中に事故や傷害が発生した場合、教員は速やかに応急処置を行うとともに、必要に応じて医療機関への搬送を行う。
 ・ 緊急時には大学の危機管理マニュアルに基づき、関係部署(メディカルセンター等)と連携して対応する。
 ・ 重大な事故の場合は、速やかに関係者(学部・保護者等)へ連絡を行う。
 ・ 受講者は事故発生時、教員の指示に従い、適切な行動をとること。

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、実技テスト20%

<教科書>

笹倉清則(2003)「Tactics of Handball in The World」財団法人日本ハンドボール協会

<参考書>

酒巻清治(2012)「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンスおよびルール説明	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得(2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術(1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム(1)
6	対人的技術・戦術(2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム(2)
7	グループ戦術(1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム(1)
8	グループ戦術(2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム(2)
9	ゲーム(1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム(2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(1)
11	ゲーム(3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(2)
12	ゲーム(4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(3)
13	ゲーム(5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(4)
14	ゲーム(6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(5)

科目コード	40102	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [他学科 + PP3年以上用]	担当者名	十河 直太			○			
		実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使つてのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。コート設営については安全に配慮した上で、始業前までに自発的に行うこと。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	まとめ	総合的レポート

科目コード	40119	区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業 科目名	ラグビー	担当者名	小村 淳、本間 正悟			○			
		実務経験 との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることができる。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	まとめ、ラグビー競技の理解と映像での試合観戦	

科目コード	40121		区 分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール [PP・PS女子+他学科女子用]		担当者名	山本 清人			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

なしなしなし

なしなしなし

財団法人日本ソフトボール協会「ソフトボール指導者教本」日本体育社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系及び守備系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト ¥n試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40202		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
			実務経験との関連	実業団チーム指導者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ(応用)は、バレーボールⅠ(基礎)を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会(2017年2月10日版) コーチングバレーボール(基礎編) 大修館書店
特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法(6/9)	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則(1)	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則(2)	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習(基礎Ⅰ)と救急法(1)	基礎技術の指導(パス、アタック、ブロック)と救急法実習
9	指導実習(基礎Ⅰ)と救急法(2)	基礎技術の指導(サーブ、レセプション)と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法(2/4/6/9)	導入方法の理解と練習方法及び指導実習
13	フォーメーション(基礎)	フォーメーションの理解と実践
14	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート

科目コード	62008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [資格希望者用]		担当者名	河合 洋二郎			○		
			実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りレポート10%、定期試験90%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」日本体育協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（肝臓腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。